

鹿追町 ワークेशन



# 鹿追型ワークेशन「シカソン」による 地域課題解決・企業との連携のきっかけづくり

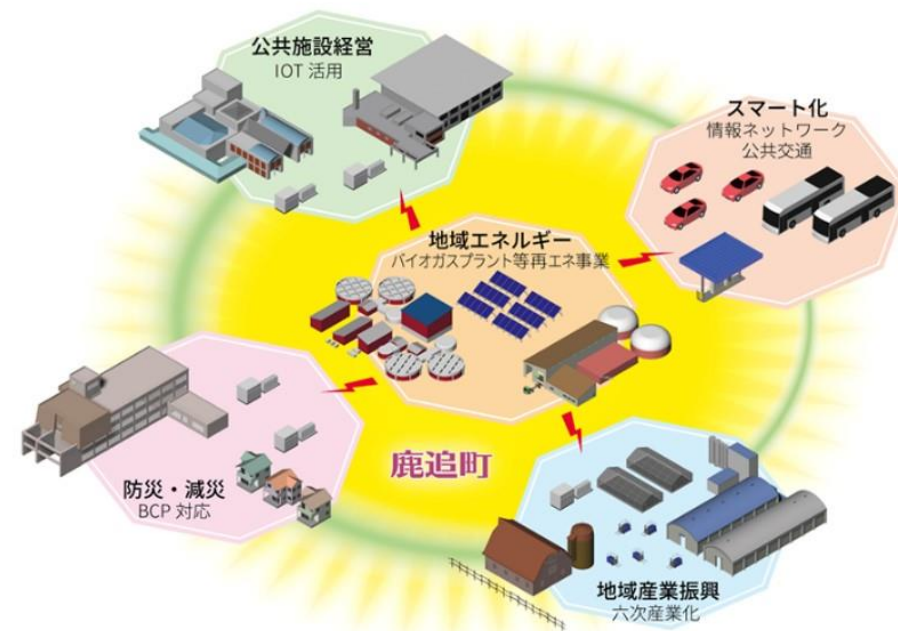
北海道鹿追町

# 1. ワークーション実証事業開始の経緯【R3年度】

## 観光庁「新たな旅のスタイル」促進事業申請・採択【4,000千円】

### 鹿島建設（株）との連携

- 家畜ふん尿由来水素を活用した水素サプライチェーン実証事業（平成27年度 地域連携・低炭素水素技術実証事業）
- 令和2年10月 地域スマートソサエティ構想調印（公民連携）
  - ①地域エネルギー供給事業
  - ②公共施設経営
  - ③防災、減災はBCP対策
  - ④ICTを利用したスマート化
  - ⑤地域産業振興



### 応募の経緯

- 令和元年度～ 北海道型ワークーション導入検討・実証事業（令和2年度～ 普及・展開事業）
- 令和2年12月 **「鹿追町が持続可能なまちへと進む提案」**について意見交換  
**コロナ禍における国内情勢、鹿追町の強み、鹿追町の課題を踏まえた鹿追町の「地域課題解決」への一歩を提案**
- 企業と連携した環境整備・受入の推進  
→目指す姿の一部：国立公園内ワークーションの推進、市街地コワーキングスペースの推進

### 応募の目的

- ① **コロナ禍で激減した観光客の回復・誘導、長期滞在を行うワークーション需要の取り込み**
- ② **環境分野における関係人口・交流人口の拡大、企業との連携による地域課題の解決**

# 鹿追町が「シカソン」に取り組む目的は？

- ① 鹿追町の強み、鹿追町の課題を踏まえた鹿追町の「地域課題解決」への一歩
- ② 関係人口・交流人口の拡大、企業との連携による地域課題の解決

## 「参加型」新モデル構築へ

### 鹿追町が実証実験



施設見学後、町内のホテルで地域の課題を話し合うワーケーション参加者

【鹿追】町は本年度、民間企業を軸にワーケーションの受け入れ態勢を整える実証実験に取り組む。地域参加型の新たなモデルを考案し、新規企業の獲得を目指す。第1弾として札幌のIT企業が2泊3日の日程で町内を訪れ、持続可能なまちづくりを学んだ。

実験は道観光振興機構の事業として実施。町内で旅行ガイドを行う社団法人「En」に委託し、町全体で取り組むゼロカーボンシティ宣言、シオパーク、国連の持続可能な開発目標(SDGs)推進のまちづくりなどをテーマにワーケーションで訪れた企業と町、町関係者、民間事業者が視察や交流を行う。

Enは受け入れやテーマ

設定、顧客開拓などを担当。観光地を巡る従来の「旅行型」ではなく、環境や地域経済、過疎といった地域が抱える問題を話し合い解決する「参加型」のビジネスモデルの構築を目指す。

初参加した札幌のIT企業は社員7人が7月11〜13日にEnが企画した家畜ふん尿由来のバイオガス発電や然別湖に生息する特定外来種ウチダザリガニの駆除を見学。町関係者との学習会では水素で走る燃料電池車(FCV)の活用やSDGsと行政との関わりなどに関心を示した。

道内のワーケーションに詳しい北海道二十世紀総合研究所(札幌)の佐藤公一は「旅行型のワーケーションはどれも同じで長続きしない。地域の課題解決に取り組む参加型が今後の主流になるのでは」と話している。(伊藤圭三)

## 鹿追と企業結ぶ ワーケーション

【鹿追】町外の企業が町内滞在中に地域の課題に挑戦する、鹿追独自のワーケーション「シカソン」が注目を集めている。町は東京と札幌のセミナーに職員を講師役で参加させるなど、ワーケーションの新たな魅力として道内外に発信し、「仕事と観光の両立を図る従来型ではなく、地域と企業を結ぶモデルにしたい」と意気込む。

(伊藤圭三)

### 環境や過疎…町の課題、ビジネスヒントに

町は、観光庁のモデル指定を受け、2021年度に大手ゼネコンの鹿島(東京)と独自のワーケーションスタイルを模索。3泊4日の日程で、然別湖のホテルに仕事場を設け、環境への影響が懸念される特定外来生物ウチダザリガニの駆除や冬のイベント「しかりべつ湖コタン」のイグルー作りを企画した。今年度は、札幌のIT企業「シカソン」と命名。3日間滞在し、町が進めるゼロカーボンシティ宣言やシオパーク、国連の持続可能な

### 東京、札幌のセミナーで報告



地域貢献型ワーケーションの一環でザリガニ駆除に取り組む参加者たち=2021年10月、鹿追町

な日本テレワーク協会は、4日に東京で開いた「デジタル田園都市」がテーマのセミナーへの出席を要請。町や長野県松本市など全国14の自治体や企業が集まる中、町企画課の担当者は、企業との関わりやワーケーションの将来性、シカソンの魅力を紹介した。

さらに、10日には道が札幌で開催する「北海道型ワーケーションセミナー」で事例報告する。

同課は「町のバイオガス発電や燃料電池車、環境問題への関心は高い。今後は、地域の課題を考えながら仕事に生かすスタイルが主流になる」と期待する。

## 2. 鹿追町が進める課題解決型ワークショップ「シカソン」とは？



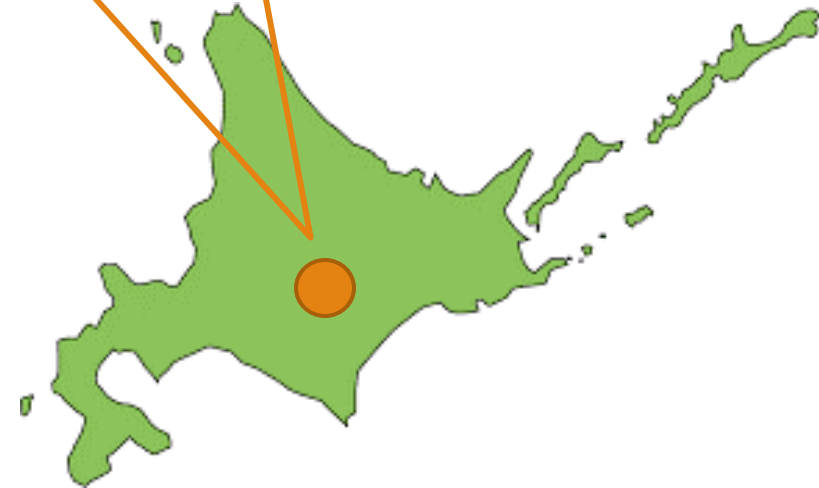
環境を学ぶ 未来を考える  
**鹿追町**  
鹿追型ワークショップ



- ゼロカーボンシティ宣言のまち（2021年3月）  
環境省 第1回脱炭素先行地域（2022年4月）
- 日本ジオパークのまち  
とち鹿追ジオパーク（2013年）
- 国立公園のまち
- SDGs推進のまち
- 過疎のまち

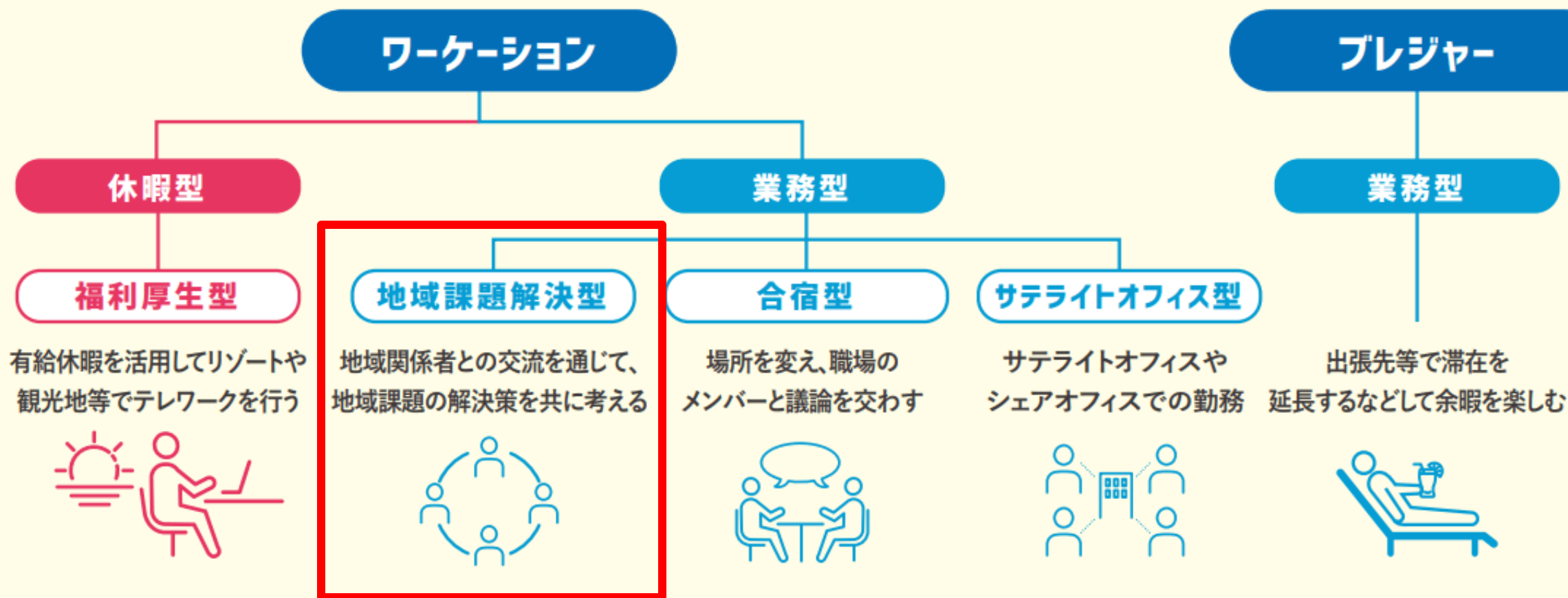
「鹿追（シカオイ）町」で、訪れた方と環境をテーマに、一緒にマラソンを走るかのように学び、考え、持続可能な未来（ゴール）を目指すショートステイプログラムです。

人口 5,266人（15歳未満 13.6%）  
基幹産業：農業、観光  
教育、国際交流も特徴的!!



## 2. 鹿追町が進める課題解決型ワーケーション「シカソン」とは？

### 実施形態(イメージ)



出典：観光庁「『新たな旅のスタイル』ワーケーション&ブレジャー(企業向けパンフレット)」より引用

# 3. 2023シカソンサミットinしかおい



日程：2023年11月20日～22日

場所：鹿追町内

参加者：サミット12名（11社・12名・15泊）  
セミナー35名（サミット参加者含む）

## 【内容】

- ゼロカーボンの取り組み視察
- とちち鹿追ジオパーク視察
- 町内キーマンとのセッション
- ワークーション有識者セミナー
- パネルディスカッション
- 情報交換ワークショップ

## 【参加者の声】

- 業種や専門、出自の全く違う人が一同に会すことで、今まで考えもしなかったアイデアが浮かんだ。
- 札幌、東京、長野と広く参加者が集まり、異業種間での交流を経て、自身も考えさせられることが非常に多かった。
- 合宿型の研修を鹿追町でやってみたい！
- ワークーションを通して地域に根差して活動されている方や、鹿追町様の持続可能な取り組みに関するの興味が大きかった。
- このイベントを通じてより多様なアイデアを生み出すためには、もっと自社の他の社員にも参加してもらいたい。
- 記憶に残るために「体験」「人に会う」ことがとても重要なことを改めて感じる事ができた。

## 先進地の関係者招きセミナー

# 鹿追 ワークーションの聖地に



立科町の取り組みについて紹介する上前さん（左）と渡邊さん

## 来訪者との対話 重要性提起

カーボンの取り組みや、とかち鹿追ジオパークを視察。21日は町民ホールでセミナーが開かれ、事業者など約40人が参加した。セミナーは2部構成。1部の講演では、課題解決型ワークーションの先進地、長野県立科町企画課の上前知洋係長が雇用創出型テレワークなど地元の取り組みを紹介。信州たてしな観光協会の渡邊岳志さんが、地域事業者との対話の重要性などについて述べた。オンラインで参加した十勝シティデザイン（帯広）の柏尾哲哉さんは、首都圏と十勝をつなぐ人たちが新しい価値や事業を創造する「リンバーション」を提唱。2部では、鹿追町内に複数回ワークーションで訪れている札幌のIT企業、HBAの高野達経経営企画副本部長と、鹿追町企画課の迫田明巳係長が対談し、ワークーションの参加側と受け入れ側の目線で、課題などについて意見を交わした。迫田係長は「企業と一緒に5年後、10年後につながる鹿追独自の方向を目指していきたい」と話した。

【鹿追】まちの課題解決を組み込んだワークーションについて考える「2023シカソンセミナーinしかおい」（鹿追町主催）が11月20～22日、町内で開かれた。参加者は課題解決型ワークーションについて意見を交わした。（大井基寛通信員）

「シカソン」は、ワークーションをしながら、まちの課題と解決策を探り、企業と町民らがマラソンのように長期で取り組むことを目指す事業。鹿追とマラソンを掛け合わせた造語。20日は、町内で進むゼロ

## ワークーション可能性探る

### 鹿追で「シカソンサミット」

【鹿追】ゼロカーボンなど町の環境面への取り組みに関心がある企業と地元が交流する「2023シカソンサミットinしかおい」が20～22日、町内で行われた。21日のセミナーでは、鹿追に滞在しながら仕事をするワークーションの可能性や課題を話し合った。



鹿追でのワークーションの可能性と課題などを話し合った「シカソンセミナー」

町民ホールでのセミナーには約30人が参加した。第1部は先進地・長野県立科町の担当職員らが講師となり、「自然に恵まれ、環境問題に取り組み鹿追は可能性がある」などと期待を込めた。

第2部は鹿追で2021年度から毎年ワークーションを実施しているシステム開発道内大手のHBA（札幌）の担当者が「新型コロナウイルスで海外研修に行けなくなり、代わりに鹿追でワークーションを始めた」と説明。「参加者からも好評で、普段エンドユーザーと接する機会のないシステムエンジニアの社員が生の声を聞けて、人材確保面でも役立っている」と話した。（和田年正）

# 4. 2024シカソンサミットinしかおい



日程：2024年11月27日～29日

場所：鹿追町内

参加者：12社・17名・7泊  
(スポット参加者含む)

内容

鹿追町の教育関係視察、とち鹿追ジオパーク視察、町内キーマンとのセッション  
町外関係者との本音トーク、交流会  
2日間の振り返り・まとめ、町長への提案

**3日間のスケジュール**

**1日目 11/27**  
 現地集合 @ピュアモルトクラブハウス  
 オリエンテーション 13:00-13:45  
 鹿追町の教育関係視察 14:00-15:45  
 鹿追高校の取組  
 国際バカロレア候補校  
 とち鹿追ジオパークビジターセンター見学 16:00-17:00

**2日目 11/28**  
 AM 自由時間  
 町内キーマンとのセッション 13:00-15:30  
 町外関係者との本音トーク「なぜ鹿追!?」 15:40-17:00  
 交流会 17:30-19:00  
 町内キーマン、町外関係者も参加!!

**3日目 11/29**  
 2日間の振り返り・まとめ 10:00-11:00  
 町長への提案「我が社、こんなことができます!! 私、こんなことやってみたい!!」 11:00-12:00  
 現地解散

**鹿追でこんなことやっていきます**  
 鹿追で何ができる、何してる  
 町内キーマンとのセッション

**本音トーク「なぜ鹿追!?」**  
 町外関係者との本音トーク  
 『なぜ鹿追!?』  
 地域おこし協力隊員や地域活性化起業家など  
 鹿追をよく知る「外の仲間たち」

**シカソンから繋がったこと**  
 2023年間実施実績  
 地域活性化起業家  
 空家対策事業  
 町のDX推進  
 鹿追高校で昨年度参加者が  
 講師としてそば打ち体験会  
 を実施  
 包括連携協定  
 バイogasプラント  
 発電電力の10%非化石  
 電源購入など

**【お申込方法】**  
 左のQRコードから  
 Googleフォームにてお申し込みください  
<https://forms.gle/VRnTCyDAUGqzXbw7>

日程 11月27日(水)～29日(金)  
 募集人数 20名  
 参加費 13,000円(町内商品券3,000円  
 交流会費5,000円を含む)  
 申込締切 11月13日(水)  
 主催 鹿追町



# 鹿追高生に居場所を

## 道内社会人17人が提言

【鹿追】滞在しながら地域課題の解決策を探る鹿追型ワークショップ「2024シカソンセミナーinしかおい」（鹿追町主催）が11月27～29の3日間、町内で開かれた。今年は教育をテーマに、道内の12社17人が町内に滞在し、意見交換して交流を図った。（小野寺俊之介）

## 「シカソン」3日間滞在

「シカソン」は、鹿追の業を手掛ける「Brain Trust from The Sun」（東京の大川圭一さん、DX推進の課題や環境をテーマとして、マラソンのように継続的に訪れた人と町が一緒に考えていくことを狙いとしている。昨年度に続き2回目の開催。

初日は教育関係の視察を実施。2日目は町内キーマンとの選択制セッションとして、町内のJA、民泊、訪問看護など多様な業種の働き手から話を聞き、鹿追町の実情を探った。

その後、町民ホールでパネルディスカッション（本音トーク『なぜ鹿追？』）が行われた。空き家対策事

に提言した。初参加したリープアローズ（札幌）の齋藤厚作代表（43）は「町で取り組むバカロレア教育に興味を持って参加した。鹿追高校を含め、非常に伸びる可能性を感じた。全員参加型のワークショップなどもあるといい」と話していた。

いすれも町外出身で、地域おこし協力隊員や地域活性化起業人などを務める3人と参加者は、鹿追の魅力や改善点について意見を述べた。

最終日は前日のディスカッションの内容をまとめ、生徒数が増加する鹿追高生の居場所づくりとして「カフェなどの飲食店を増やすべき」などと喜井知己町長

# 鹿追の課題に提言を

【鹿追】滞在しながら地域課題の解決も探る鹿追型ワークショップで、シオ1トッププログラム「2024シカソンセミナーinしかおい」（町主催）が11月27～29日、2泊3日の日程で開催される。町内で働く人との対話や交流を通じ、町の課題解決に意見を交わす。町は「知らない町には住まない、知らない町のものを買わない、知らない町のことには関心を持たない。だから今、知ってほしい」（企画課をコンセプトに、同日まで参加者を募集している）。

## 参加者を募集

力隊員や地域活性化起業人などのトーク、地元食材による交流会も予定。最終日には喜井知己町長も交え「町長への提案」の時間を設けている。シカソンを担当する町企画課の迫田明巳係長は「地方自治体の取り組みや鹿追町を知ったり、鹿追町に興味や関心のある参加者同士がつながりを持ちたりする機会として、参加を」と呼び掛けている。

鹿追型ワークショップは、「シカソン」の名称で展開されている。地域の課題や環境をテーマとしてマラソンのように継続的に訪れた人と町が一緒になって考えていく。鹿追の「シカ」とマラソンの「ソン」を掛け合わせた。

セミナーは昨年度に続き2回目の開催。今回は1日目に教育関係の視察を行い、2日目は町内キーマンとの選択制セッションとして、町内のJA、民泊、訪問看護、ホテル、新規起業など多様な業種の働き手から話を聞く。地域おこし協

## 町内視察、働き手と対話も

定員20人。参加費は1方3000円（交流会費と町内商品券を含む）。宿泊場所は町内などに申込者が手配する。申し込みは専用フォームQRコードから。問い合わせは一般社団法人En（エン）代表理事の正保綾さん（090・75003・89247、メールshikaotgreent@gmail.com）へ。



## 来月 2泊3日でワークショッププログラム



参加を呼び掛ける（左から）迫田係長と正保代表理事

# 全国ワークスタイル変革大賞

## 「シカソン」地方創生賞に



昨年12月に東京都内で開かれた表彰式にオンラインで出席し、表彰を受ける迫田係長

17人が町内でワーケーション

### 行政と企業 連携評価

【鹿追】働き方改革や伴走型支援の好例を表彰する「全国ワークスタイル変革大賞2024」で、鹿追町の課題解決型ワーケーション「シカソン」が支援部門の地方創生賞に輝いた。行政独自のプログラムで、企業との連携による課題解決や新たな人材選流のきっかけづくりを推進したことが評価された。

(小野寺俊之介)

日本デジタルトランスフォーメーション協議会などで行われ、町企画課の迫田係長が「鹿追町ワーケーション」による地域課題解決・企業との連携のきっかけづくりと題して取り組ま

に訪れた人と町が一緒に考えていくことを狙いとして始まった取り組み。昨年11月に2回目のセミナーが開催され、教育をテーマに市内の17人が町内に滞在し、意見交換して交流を図った。実行委によると、ワーケーションを「学び」と「連携」

の場として、企業との連携協定締結や地域活性化企業人の招致などの成果を生み出したことや、行政が積極的に関与して地域を巻き込んだ推進体制を構築していることが高く評価され、受賞につながった。

企画立案者の迫田係長は「まだまだ課題の多い事業だが、栄えある賞をもらえてありがたい。シカソンが町や参加企業、そして町民のためになると信じて取り組みを進めたい」と今後の意気込みを語った。

# 道、仮想空間でイベント

## 「関係人口」掘り起こし

北海道内の自治体が「関係人口」をひきつける対策に力を入れている。過疎化と人口減少が進むなか、仕事で一時滞在したり移住を検討したりする人を掘り起こす効果も期待している。

## 鹿追町はワーケーション 地元課題、企業と話し合い



生総合戦略で関係人口の拡大を重点政策に位置づけた。道はメタパス（仮想空間）を活用し、地域とつながりを持つフ

24年度は、スキーの疑似体験やアイヌ民族の文化を学べるバーチャルツアー（エンソン）と「ONE（エンソン）」というイベントを仮想空間上で開いた。8月、12月に2回開催し、累計で2

00人近いアバターが参加した。25年1月には東京でふるさと納税などを紹介するイベントを開催し、メタパスとリアル

企業と地域課題を一緒に話し合うプログラム「シカソン」を企画するのは、十勝地域の鹿追町だ。23年度からはシカソンに

町内には然別湖で発生する特定外来生物のウチダザリガニの駆除や、凍った湖の上に建つ氷でできた「イグルー（家）」を楽しむイベント「シカソンサミット&セミナー」を開催。道内外の企業や20社以上が参加した。

富良野市はワーケーションで接点を持った関係人口が、家族で移住できる受け皿づくりに取り組んでいる。具体的には、24年度から子育て世帯の「親子ワーケーション」の費用の一部を助成する制度を始めた。2週間から1カ月以内で市内に滞在する場合、宿泊費（10万円を上限とし3分の2以内）やレンタカー代（5万円を上限とし2分の1以内）を助成する。

富良野市はワーケーションで接点を持った関係人口が、家族で移住できる受け皿づくりに取り組んでいる。具体的には、24年度から子育て世帯の「親子ワーケーション」の費用の一部を助成する制度を始めた。2週間から1カ月以内で市内に滞在する場合、宿泊費（10万円を上限とし3分の2以内）やレンタカー代（5万円を上限とし2分の1以内）を助成する。

富良野市はワーケーションで接点を持った関係人口が、家族で移住できる受け皿づくりに取り組んでいる。具体的には、24年度から子育て世帯の「親子ワーケーション」の費用の一部を助成する制度を始めた。2週間から1カ月以内で市内に滞在する場合、宿泊費（10万円を上限とし3分の2以内）やレンタカー代（5万円を上限とし2分の1以内）を助成する。



北海道が関係人口向けに開いたバーチャル空間のイベント「EZONE（エンソン）」＝北海道提供



ワーケーションの実証実験では、鹿島の社員がコタンの設置に携わった（22年）＝鹿追町提供

富良野市はワーケーションで接点を持った関係人口が、家族で移住できる受け皿づくりに取り組んでいる。具体的には、24年度から子育て世帯の「親子ワーケーション」の費用の一部を助成する制度を始めた。2週間から1カ月以内で市内に滞在する場合、宿泊費（10万円を上限とし3分の2以内）やレンタカー代（5万円を上限とし2分の1以内）を助成する。

## 5. ワークেশョンを開始して得られた成果

シカソンでは、いわゆる「ワーク」&「バケーション」の観光客の増加による経済効果は、ほぼ創出していません！



# 5. ワークーションを開始して得られた成果

## R4~5年度 ワークーション参加企業【(株)HBA】 地域活性化起業人【R5.7~】：自治体DX推進 → R6.5.13 包括連携協定締結

### 鹿追町、HBAと協定

#### DX推進や脱炭素で連携

【鹿追】鹿追町とIT企業のHBA（本社札幌、白幡一雄代表取締役執行役員社長）は13日、脱炭素やDX推進を核とした地方創生、SDGs（持続可能な開発目標）の取り組み実現に向けた包括連携協定を締結した。

HBAは2023年度から地域活性化企業人制度を活用した「デジタル人材」を町に派遣しており、今回の協定はDX推進でさらに連携を深めるもの。脱炭素関連では、バイオガスパラントで発電した町の再生エネルギーをHBAが非化石証書として調達するなど幅広い分野で協力し、地域の活性化を図る。

締結式は町役場で行われ、喜井町長と白幡社長



協定書に署名した（左から）喜井町長と白幡社長

鹿追町とHBAは2023年度から地域活性化企業人制度を活用した「デジタル人材」を町に派遣しており、今回の協定はDX推進でさらに連携を深めるもの。脱炭素関連では、バイオガスパラントで発電した町の再生エネルギーをHBAが非化石証書として調達するなど幅広い分野で協力し、地域の活性化を図る。

締結式は町役場で行われ、喜井町長と白幡社長



①札幌市中央区にあるHBAのデータセンター  
②鹿追町のバイオガス発電所（町提供）

### 札幌のDC再生エネルギー100%

システム開発大手HBA（札幌）は、札幌市内に構えるデータセンター（DC）で使う電力について、十勝管内鹿追町のバイオガス発電所の由来とみなして二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出量を実質ゼロにするカーボンオフセットに取り組んでいる。年間の電力消費量（約300万kWh）と同量の非化石証書を購入して対応する。北海道内で再生可能エネルギーの電気を、DCの建設が増える中、HBAも環境配慮を重視しつつ、競争力を保つべく、特定電源に限って、働いているバイオガス発電所に着目した。

HBAは中央区でDCがなかった。そこで24年度5月1力所を運営。2023年10月に脱炭素を軸とした地域活性化起業人を協定を結んだ鹿追町で稼働しているバイオガス発電所に着目した。

鹿追町瓜幕地区にあるバイオガス発電所は、町内で飼われている牛3千頭のふん尿を発酵し、出てきたメタンガスを燃料に使う。発電時のCO<sub>2</sub>排出量がゼロとみなされる

### 鹿追のバイオガス発電所から非化石証書

非化石証書 再生可能エネルギーや原子力といった電源の二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を排出しないという価値を、実際に発電された電気と分離して取引できるようになった環境証書。2018年から非化石価値取引市場で売買されている。企業などが自動努力で削減が難しい分のCO<sub>2</sub>排出量を減らしたとみなせる。

再生可能エネルギー、天候次第の風力や太陽光よりも発電量が安定している。

HBAはこの発電所の非化石証書を購入している。24年度分は昨年11月と今年1月に計2.7万kWhを確保した。5月にも追加で買い、全量オフセットを完了する計画

だ。購入額は計1500万円ほどの見込みという。道内では昨年10月、石狩市内で風力と太陽光の電力だけを使ったDCが稼働した。人工知能の発展などでDC需要が拡大する中で、消費電力が大きいDCには環境配慮を求められる顧客が多い。

HBAは「グリーンなDCとして付加価値を高める。25年度分以降も、同じ取り組みを続けたい」（経営企画本部）という。鹿追町は「企業に環境価値を活用してもらうことが、町のPRにもなる」と期待する。

（鹿野海心）

DC移転 道内再生エネルギー有効活用

民間試算 道内再生エネルギー有効活用

三菱総合研究所重忠氏は、データセンターの北海道内への移転に伴う経済効果を試算した。移転可能なデータセンターの2割が道内に来ると、太陽光や風力の余剰電力を有効活用できるため、火力発電の燃料削減などで最大94億円の効果が生まれるとした。

試算では、2030年代半ばに道内で洋上風力や太陽光の発電施設が今以上に増えたと想定。データセンターが移転してくると、電力消費量が増えるため、太陽光や風力などの発電量が需要を上回った際に発電を抑える「出力抑制」の割合が2~4倍低下すると

井知己町長と白幡社長が協定書にサインした。白幡社長は「町にはワークショップでも訪れ、社員も愛着がある。協力して新しいことに挑戦していきたい」と述べた。（小野寺俊之介）

いさつ。喜井町長は「IT技術は日進月歩。HBAの知見を借りながら、事務の効率化や住民サービスの向上を図っていきたい」と述べた。（小野寺俊之介）



## 5. ワークーションを開始して得られた成果

### R5年度 シカソンサミット参加企業の仲介【(株)Brain Trust From The Sun】 地域活性化起業人【R6.7～】：総合的な空家対策推進



**鹿追町 空き家対策に助っ人**  
東京の不動産業 大川さん採用

【鹿追】鹿追町は1日、国の「地域活性化起業人」制度を活用し、不動産業の「Brain Trust from The Sun」（東京）から大川桂一代表（48）を採用した。中古住宅活用事業の知見を生かし、町が今年度から進める空き家対策に取り組む。任期は1年間。

同制度は、民間企業での経験を自治体の課題解決に取り入れ、地域活性化を図ることが目的。地方自治体が3大都市圏の企業から社員を一定期間受け入れる。同社は神奈川県鎌倉市などで空き家再生事業を手掛けた実績を持つ。昨年11月に開かれた2023シカソンサミットに参加した企業から紹介を受けて、同町とつながった。

大川代表は月に10日程度の勤務。当面は空き家の実態調査などを進め、中古住宅の活用に向けて方向性をまとめる。8日に町役場を訪れ、「鹿追町は魅力的な町だが、移住のニーズに応えられる安く良い住宅は多くない。シェアリングエコノミーなどの可能性を含め、地域住民と一緒に前向きに対策を考えていきたい」と意気込みを語った。

同町の同制度の利用は通算3件目で、現在2社を受け入れている。喜井知巳町長は「まずは町内空き家の実態をしっかりと把握してほしい。移住者などにとって良い住環境となるよう知見を借りたい」と話していた。（小野寺俊之介）

町の空き家対策に取り組む大川代表（右）と喜井町長

## 6. シカソンが創り出してきたもの

企業・社員の「学び」や  
「気づき」を創出しています！

自治体と企業の連携による  
「地域課題」の解決を  
図っています！



シ  
カ  
ソ  
ン

自治体と企業の「出会い」  
を創出しています！

サミット参加者同士の  
「出会い」も創出しています！